



就任の挨拶

一般社団法人岐阜県臨床検査技師会
会長 浅野 敦

今年度より、一般社団法人岐阜県臨床検査技師会の会長を
拝命いたしました大垣市民病院の浅野 敦と申します。

平成 26 年度から 4 年に渡り副会長として兼子 徹 前会長
のもと、理事会や各事業に関わらせていただきましたが、こ
れからは、860 余名の会員を率いる岐阜県臨床検査技師会が
より一層の発展に向かう路へ進めるよう、精いっぱい舵を取
らせていただく所存です。

近年、日臨技主催の医学検査学会や支部学会において“パラダイムシフト”がキーワード
になっていることは皆様ご存じのことでしょう。2025 年問題に代表される超高齢化社会、
これに伴う医療情勢の変化が背景にあります。これに対して、臨床検査技師が在宅や認知
症に対する医療へ積極的に参画することが呼びかけられています。また院内においても病
棟業務や検査説明、さらには今年 4 月からスタートしたがんゲノム医療など、患者さんへ
直接的に関わっていくことが推進されています。今後も臨床検査技師の職域を守り、発展
させていくための鍵になるのは間違いないと認識しています。

このような背景の中、岐阜県臨床検査技師会は、臨床検査技師が医療現場でメディカル
スタッフの一員として活躍していただけるよう、また職能人としてのスキルを向上してい
ただけるよう、各事業を通してサポートしていく体制を維持していきます。このため、技
師会内各部の組織体制を充実させ、多職種連携を見据えて各団体との協力関係強化を図
っていきたいと考えています。加えて、各施設技師長からのご理解も必要不可欠です。今後、
施設間の繋がりも意識して、定期的に各施設技師長に参集していただく技師長連絡協議会（仮
称）を開催していきたいと考えています。

さて来年度は、第 58 回日臨技中部圏支部医学検査を岐阜県が担当することになっていま
す。テーマを 「飛躍」～臨床検査のさらなる展開に向けて～ とし、2019 年 10 月
12 日（土）、13 日（日）の二日間で開催します。中濃地区の方々が中心となる実行委員会
も立ち上がっており、開催までご尽力いただきます。会員の皆様にも、実務委員、座長、
演題発表、学会参加とさまざまな形でご協力をいただくこととなります。会員皆で盛り上
げ、学会を成功させましょう。

この先 2 年間、役員一同が結束して会員皆様のために頑張っていきますので、ご支援、
ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30・31年度 役員

この度、定時総会におきまして
任期満了に伴う役員改選が行われ、続く理事会にて、
平成30・31年度の役員が下記のとおり選任され、就任いたしました。
諸先輩方が築かれた組織を継承し、
臨床検査技師の知識・技術の向上、
臨床検査の精度の向上と、岐阜県民の皆様の健康保持・増進を目指し、
事業を展開して参ります。
役員一同決意も新たに、会務を遂行して行く所存です。
よろしくお願い申し上げます。

会 長	浅野 敦	大垣市民病院
副 会 長	森 さゆり	岐阜清流病院
副 会 長	長谷部正仁	下呂市立金山病院
常務理事(庶務部長)	後藤 幸雄	松波総合病院
常務理事(会計部長)	川合 直樹	可児とうのう病院
理 事	藤本 伸吾	岐阜大学医学部附属病院
理 事	斎藤 大輔	岐阜市医師会臨床検査センター
理 事	松原 成明	岐阜県総合医療センター
理 事	外川 綱生	揖斐厚生病院
理 事	松浦 康博	メディック
理 事	乙訓 佳子	関中央病院
理 事	中村 考博	鷺見病院
理 事	土屋 亘美	県立多治見病院
理 事	兼平 昌彦	土岐市立総合病院
理 事	羽柴久美子	東濃厚生病院
理 事	松本 信子	高山赤十字病院
理 事	熊崎 幸代	県立下呂温泉病院
理事(組織調査部長)	澤野 晴夫	総合保健センター
理事(学術部長)	渡邊 宜典	岐北厚生病院
理事(広報宣伝部長)	高崎 昭彦	岐阜医療科学大学
理事(精度管理事業部長)	佐藤 恵彦	関中央病院
理事(渉外部長)	柴 千春	ききょうの丘健診プラザ
監 事	糸山 里美	羽島市民病院
監 事	森 晴雄	岐阜県総合医療センター



西濃地区 担当実務委員 松浦 康博（メディック）

平成 30 年 6 月 10 日（日）岐阜医療科学大学 早緑ホールにおいて春季拡大研修会が開催され 97 名の参加がありました。

今回は生物化学分析部門及び臨床一般部門が担当して頂きメインテーマ『急性腎障害（AKI）を考える』サブタイトルとして臨床側からのアプローチと検査側からのアプローチで研修会を行いました。生物化学分析部門から岐阜大学附属病院 高次救急治療センター臨床講師の鈴木 浩大先生にて『救急医からみた AKI』について話をして頂き司会は岐阜大学附属病院検査部石田 秀和先生にて行いました。鈴木先生には、AKI の定義、基準の成り立ち、血清 CRe、BUN の検査項目以外に CystatinC、NGAL、L-FABP 等新しい AKI の早期診断のマーカーについて詳しく講演して頂き AKI の発症メカニズムから早期診断の検査及びその治療方法まで先生の自験例も踏まえて詳しくご説明いただき大変勉強になりました。

臨床一般部門から北陸大学 医療保健学部 教授 油野 友二先生にて『急性腎障害（AKI）を考える～検査側からのアプローチ～』について話をして頂き司会は岐阜赤十字病院 検査部 林 晃司先生にて行いました。油野先生には、急性腎障害（AKI）の考え方、AKI の分類と関連する検査、高齢者の腎機能についてどう考えるか等、AKI について中広く講演頂き、臨床検査技師特に一般検査を担当する技師において CKD を中心に検査して来た者に対して大変勉強になりました。

ランチョンセミナーでは富士レビオ株式会社 吉尾 仁美先生『腎臓の基礎と関連バイオマーカー（L-FABP）のご紹介』、シスメックス株式会社 白石 泰彦先生『敗血症の検査・診断・治療の基礎について』をお話しして頂きました。

市民公開講座ではエスアンドエイチコンサルタント事務所 所長 永田 寛彦先生に『働く人の健康管理ー労働衛生の見地からー』というテーマで講演して頂きました。先生の労働衛生のコンサルと臨床生理でのお話は職場での職員の健康管理において今後起こりうるリスクであると受け止めて、現場管理者による各検査員の健康管理職場環境の指標になるものと勉強させて頂きました。

各研修会、学術発表は各地区実務委員 各部門委員の先生方の事前の準備があつての研修会です。是非今回参加出来なった先生方も今後参加していただき、岐阜県の臨床検査技師会活動を盛り上げて下さい。





新人サポート研修会

木沢記念病院

森川 咲子

「正確な結果を報告する」ことは、臨床検査技師の責務です。今回の講義テーマを「結果に影響を与える要因」にした理由はそこにあります。

新人技師の皆様、分野に関係なく、「この結果でいいんだよね？」と毎回、新たなケースにあたり、奮闘しているのではないのでしょうか。先輩・上司にご教授いただきながら、あらゆるケースに対応できるよう、知識と技術を習得することが、「正確な結果を報告する」ための第一歩です。また、研修会に積極的に参加し外部からの情報を得ることも大きな成長につながります。皆様のこれからの活躍を期待しています。岐阜県臨床検査技師会を盛り上げていきましょう。



Rookie Clinical technologist



「臨床検査技師として働いて感じたこと」

岐阜県総合医療センター 臨床検査科

汲田 恵実

臨床検査技師として働き始め3ヶ月が経ちました。

私が勤務する病院では8月から私たち新人も当直業務が始まるため、この3ヶ月間で当直業務を覚え1人でこなせるよう、検体検査、細菌検査、生理検査の業務内容を教えていただきました。大学で習得した知識に加え、臨床の現場でしかわからない検査を行う際の緊急性の有無や、様々な事を考慮して優先順位を考えながら動くということを身に付けました。そうした行動の積み重ねにより検査結果を迅速に提供することで、より早く治療に繋げることができると思います。これからも、より良い医療を提供するため、常に迅速な結果の提供を意識して動きたいです。

大学を卒業し、臨床検査技師として病院の一員になることはとても不安でしたが、丁寧に優しく指導してくださる先輩方や、共に高めあえる同期のおかげで不安がなくなり、毎日とても有意義に仕事ができています。これからもより一層勉学に励み、早く一人前になり、患者さんを救う医療に貢献する臨床検査技師になれるよう、精進していきたいです。

Rookie Clinical technologist



「働いて感じたこと」

(株) メディック

丹羽 伸樹

私が4月から働き始めて感じたこととして先ず一つ大きくあるのが、やりがいのある仕事だと感じたことです。検査センターでは日々多くの検体が運び込まれ、働き始めの私には覚えることもたくさんで最初は一つ一つのことをこなすことで精一杯でした。しかし、その検体一つ一つの先には患者様がいるのだという事を考え、取り組んでいくことで忙しさの中にもやりがいを感じることができました。

また、二つ目として日々学ぶことそして仕事していくことに違いを感じ、新鮮味があると思えることです。少しずつ仕事を覚えていく中で自発的に次はこういったことを知りたい、聞きたいと上司に質問をしたりしていくようにもなりました。また仕事自体は同じ作業でもその日その日に来る検体に同じものはありません。どのように検査を進めようかと考えるその中にもやりがいや新鮮味を感じます。

施設 紹介

特定医療法人 博愛会病院

博愛会病院は昭和 26 年に開設し、2 回の移転を経て現在に至っています。

平成 10 年より特定医療法人の承認を受け、公共性の高い医療法人へと移行し、いかなる社会情勢においても地域の皆様に安心して頂ける医療法人を目指しています。また、当院は ISO14001、9001 の認証取得、病院機能評価 3rdG:Ve.1.1 の認定を受けており、PDCA サイクルを活用した継続的な業務改善にも取り組んでいます。



臨床検査科の人員は女性 6 名で、検体検査（生化学、免疫、血液、一般、輸血）、生理検査、採血、健診業務を行っています。少人数であるため、短期間のローテーションを組み、全員体制で業務を実施しています。このため、各分野における知識不足が起こらないように、また、個々のスキルアップを目指して積極的に研修会に参加し、資格取得にも意欲的に取り組んでいます。これからも充実した保健、医療、介護福祉サービスの提供ができるように、日々精進し、業務を遂行していきたいと考えています。

桑原 理恵

第 58 回中部圏支部医学検査学会 進捗状況報告

7 月 13 日（金）に行われた常務理事会において、今年度の新理事の先生方を加えた実行委員（案）が承認され、近日中に H30.第 1 回実行委員会を予定しております。第 57 回学会（三重）の抄録集に掲載予定の「次回学会予告」のページ（案）を作成しました。

掲載写真等の変更等を加え完成させたいと考えております。

「飛躍」
～“臨床検査”さらなる展開に向けて～

刀鍛冶
田空仏
岐阜県関市・小瀬川（5月～10月）

平成31年度 日臨技
中部圏支部医学検査学会(第58回)
主催：一般社団法人 日本臨床検査技師会中部圏支部
担当：公益社団法人 岐阜県臨床検査技師会

平成31年 10月12日(土)・13日(日)
長良川国際会議場 <http://www.g-ncc.jp/>
岐阜都ホテル
〒502-0817 岐阜市長良福光2695-2
TEL: 058-296-1200 FAX: 058-296-1210

名もなき池（通称：モネの池）

学会長： 浅野 敦（大垣市民病院）
実行委員長： 高崎 昭彦（岐阜医療科学大学）
事務局長： 乙訓 貴之（岐阜医療科学大学）

発行所（一社）岐阜県臨床検査技師会

〒500-8384 岐阜市藪田南3 丁目5 番地 10 コスタ岐阜県庁前 603 号

TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

発行責任者 浅野 敦

編集者

高崎 昭彦

松浦 康博

種村 久子

E-mail

giringi-office@giringi.jp